

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

January 2020 vol.69

January						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

いこうがわ
伊香川

所在地：北設楽郡豊根村上黒川伊香

交通：新東名高速道路「新城」IC 北東 約 50km

平成元（1989）年、豊根村を流れる坂宇場川の支流であった伊香川で、豪雨により大規模な土石流が発生しました。この豪雨は、9月1日午後11時頃から降り始めた雨が4日未明まで断続的に降り続いたもので、伊香川に近い豊根では3日夕方までの雨量が430mmとなり、3日午前11時には時間雨量56mmを記録する集中豪雨となりました。

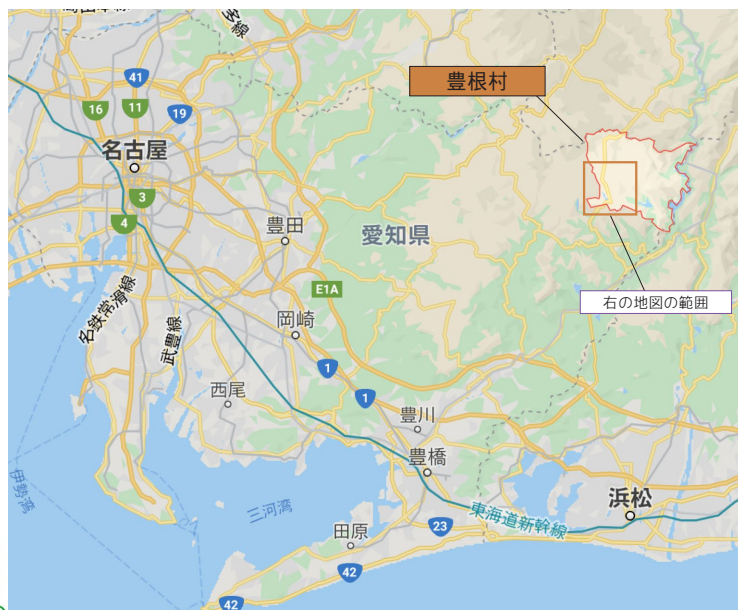
豪雨により、標高850m付近の伊香川の最上流部で斜面崩壊が発生し、土石流が伊香川を流下しましたが、約1km流された土石流は、途中に設けられていた伊香川砂防ダムの堆砂地内で大部分が停止します。ところが、斜面崩壊で発生した土石流には大量の樹木が含まれており、これが砂防ダムを越流し、流木となって下流へと流れていきました。

この流木と鉄砲水により、砂防ダムより下流にあった家屋の1戸が流木の衝突により半壊し、家屋の中にとどまっていた4名のうち1名が流木の直撃を受け、下流へと流されて命を落としました。

「平成元年伊香川に発生した土石流および流木の発生・流下・堆積特性」（建設省土木研究所 福澤 誠 ほか）によれば、流下した土砂4,700m³のうち約4,000m³は伊香川砂防ダ



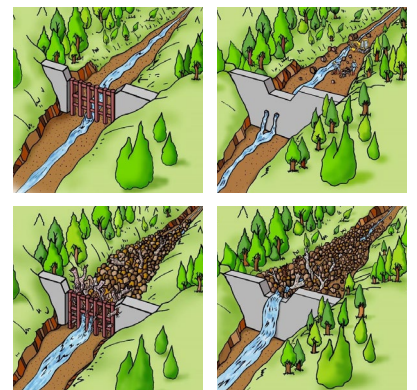
流木の衝突の衝撃力により破壊された家屋
「渓流における流木の発生、流下と災害」より



ムにとらえられ堆積しましたが、流木については、発生した1,800本のうち砂防ダムで捕捉されたものは約60本にとどまり、78%にあたる1,405本が本流の坂宇場川に流れ込んでいます。

土砂対策として、全国には約6万基の砂防堰堤がありますが、これまで整備されてきた堰堤は、大半が土砂を堆積させて食い止める「不透過型」と呼ばれる堰堤です。「不透過型」の堰堤は、流れてくる土砂を堆積させるため、満杯になると比重の軽い流木がその上を越え、下流へ流れ出し、流れていきます。近年の豪雨災害では、先の豊根村の事例と同様、土砂と一緒に大量の流木が流れ出し、堰堤を乗り越えた流木が下流の民家に衝突したり、道路をふさいで災害復旧の妨げになるなどして、被害を拡大させています。平成30年7月の西日本豪雨でも、上流から流れてきた流木が橋に引っかかり、そこでせき止められた水が道路に溢れ、被害を拡大させるケースが見られました。こうしたことから、最近では「透過型」と呼ばれる、土砂をある程度下流へ流すタイプの堰堤の整備や改修が進められています。

近年、各地で集中豪雨が多発しており、山崩れによる大きな被害も発生しています。災害に備え、あらためて避難場所や避難行動の確認をしておきましょう。



（左）透過型砂防堰堤（右）不透過型砂防堰堤
国土交通省 HP より



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆ 豊根村の周辺には…

● 清嶺小学校 (旧清崎小学校)

所在地：北設楽郡設楽町清崎

交通：JR 飯田線「大海」駅 北 約 20km

昭和 19 (1944) 年昭和東南海地震は、清崎小学校の新校舎前にあったプラタナスの根元に



に割れ目が生ずるほどのすごさであったといえます。現在は合併により、清嶺小学校と名を変えています。

● 大徳寺

所在地：新城市富栄字大貝津

交通：JR 飯田線「三河大野」駅 南 約 800m



鳳来町誌には、元和年間 (1615 - 1624) に整備された本堂諸施設が、明治 22 (1889) 年に大地震 * にあったことが記されています。(* : 周辺の市町村誌も参考にすると、明治 24 年の濃尾地震のことと思われます)



● 島田陣屋遺跡

所在地：新城市野田字西郷 (現在は埋め戻され、見ることはできません)

平成 4 (1992) 年 9 月 ~ 12 月に発掘された遺跡です。戦国期から近世の遺構のほか、弥生時代の遺構が見つかります。この遺跡では、地震痕跡として、かなり古い時期の地震活動によると思われる噴砂が見つかります。

◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』 (<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をご覧ください。

★ 花祭り

花祭りは奥三河地方に伝わる民俗芸能で、国の重要無形民俗文化財に指定されています。由来は、地域に土着した修験者たちが、修験道の教義 (罪汚れを払い新しい自己となること) を村人たちに伝えることでした。

祭では、神仏が憑依した舞手を舞庭と呼ばれる祭場に招き、村人と神仏が交遊することで新しい自己への生まれ変わりを体感します。子どもたちがかわいらしく舞う「花の舞」、巨大な仮面の鬼が鉞をかざして舞う「山見鬼」「神鬼」など、様々な舞が夜を徹して続けられます。かつては豊根村では 8 か所で行われていましたが、過疎化などにより減少し、現在では坂宇場 (11 月第 4 土・日)、下黒川 (1 月 2 日 ~ 3 日)、上黒川 (1 月 3 日 ~ 4 日) の 3 か所での開催となっています。



Aichi Now HP より

あいちの農産物

天狗なすは奥三河地方で戦前から栽培されているなすで、愛知の伝統野菜にも選定されています。



愛知県園芸農産課 HP より

果実は 400 ~ 700g と大型で (通常のなすは 100 ~ 300g 程度)、天狗の鼻状の奇形果が発生しやすくこの名前がついています。旬は 7 月から 10 月にかけてで、果肉はやわらかく水分を多く含んでおり、焼きなすやソテーに適しています。旧津具村 (設楽町) に伝わる天狗伝説から天狗なすと呼ばれるようになったとも言われています。

● ブレイクタイム ●

♪ 星空カフェ「てんくう」

星空カフェ「てんくう」は、「愛知のてっぺんで星を見る」をコンセプトに、愛知県で最も標高の高い場所にある茶臼山高原で月に 1 回開かれるカフェです。

星空案内人の解説を聞きながら、6 等星まで見る事の出来る茶臼山高原の星空を観察したり、銀マットに寝ころびながら星空も見上げたりすることができます。コーヒーも用意されており、軽食を楽しみながら、のんびりと星を眺めることもできます。



奥三河観光協議会 HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』 (<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をぜひご覧ください。

(発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター 令和 2 年 1 月)